

# 長畝ふるさと通信

【2018年9月号】

## ■ もはや異常気象では済まされない大問題です！



8月前半のかつて経験したことのない「酷暑」とは打って変わって、後半からはこれまでの溜まりまくった雨を一気に吐き出すかのように雨天が続きました。そこに輪をかけたように大型台風が毎週末に通過し、おかげで田んぼはご覧の有様です。稲は倒伏し、雨水をたっぷり吸収した田面はコンバインの行く手を阻み、刈取作業は一向に進みませんでした。おかげでコンバインでは刈り取れない稲は手刈人足を投入し、泥だらけになりながらの稲刈り作業も多発。コンバインも荷重がかかりすぎ故障車続出。昨年より一週間も遅れてようやく刈取終了となりました。

## ■ 肝心の収量と品質については・・・



① コンバインで収穫された「モミ」はライスセンターに搬入・計量され、基準値まで乾燥した後、左の籾摺り機でもみ殻が外され「玄米」になります。

② 玄米になったお米は右の「1.85ミリ」の振るいかけられ、それ以下の小さな粒を弾き飛ばします。今年の場合は、8月の出穂から登熟期(コメ粒が養分を吸って太る時期)にかけて猛烈な暑さに見舞われた



ため、おコメにかなりのストレスがかかり(人間様はエアコンというありがたい文明の機器がありませんが、田んぼにはそんなもんあるはずもなく、さぞや苦しかったことでしょう)十分な栄養補給ができず、「未熟粒」となって網目から弾き出されたお米は例年の3倍近くにもなりました。



③ 振るいにかけて粒が揃った玄米は更に色彩選別機で「青未熟粒」や「斑点米」「シラタ(白く濁った色の粒)」などをきれいに選別し「一等米」に仕上げていくのですが、色彩選別機の能力を上げれば上げるほど処理能力は低下し、ピーク時は徹夜作業までして普段の倍以上の時間と労力をかける結果となりました。

④ 結果、製品歩留まりはかなり低下して、コシヒカリの平均反収は約6.2俵とこれまでにない不成績となり、計画していた生産数を1500袋以上も下回ってしまいました。



⑤ おかげさまで検査等級は「オール1等米」となりましたが、JAの食味計による食味値は残念ながら80点を下回る点数となってしまいました。機械が分析する食味値と人間が感じる食味は同じではありませんので、あとはご自身で食べてみてご判断してください。

今年度はライスセンターの改装という一大事業のスタート年でしたが、見事に鼻をくじかれてしまいました。不作の原因は春先の初期生育の不良と夏の高温障害、収穫期前の長雨や台風などの異常気象だといえますが、来年以降、異常気象が当たり前の地球さんになってしまっている現実を直視すると「今年は例外」とはもはや誰も思わなくなっています。今の時点ではどんな対策が打てるか見当もつきませんが、農業と気候とは密接な関係ですから難しい大問題です。一年一作の稲作はこの激動にどう対応できるのでしょうか・・・

という訳で、30年産米の「新米」をお届けします。運賃の値上がりからやむを得ず値上げとなつてしまい、ご迷惑をお掛け致しますが何卒ご理解ください。

台風25号が接近する前の空模様です。それまで何事もなかったような青空に西側から一気にどす黒い雨雲がやってきて暴風雨となりました。これからの農業を暗示するかのようです。台風が通過するのをただ待つより、その前に何とかする知恵を持たなければと思う次第です。

